

神根中だより

～歌声と笑顔あふれる学校～

令和4年3月号

学校教育目標
主体的に学ぶ、
心豊かでたくましい生徒



かみね
川口市立神根中学校

〒333-0823 埼玉県川口市石神1515-1
電話 (048) 296-7025

東日本大震災の9日前に出した中1理科のテスト問題

校長 松村 一人

2011年3月2日…東日本大震災の9日前。私は、1年生の理科を担当し、学年末テストとして、「稲むら（いなむら）の火」という物語を読んで答える問題を出しました。実はこの物語、昔は国語の教科書に掲載されていたのですが、その当時は「**国定教科書**」といって、日本全国みんなが同じ教科書を使っていました。ですから、この内容は、日本国民全員が学んだ共通の知識となっていました。埼玉県は海がないとはいえ、生徒たちも、将来、地震による津波に出会うこともあるかもしれません。ですから、**「将来、絶対に知っていて欲しい知識だ」と強く思って出題したものです。**

～少し長いので、今回はあらすじを書きます。～

老いた五兵衛(ごへえ)という村の庄屋さんは、その村の高台に住んでいました。あるとき、長いゆったりとしたゆれ方と、うなるような地鳴りの地震が起こりました。でも高台から見える下の村では、祭りの最中で誰も地震に気がつかないようです。ところが海の方を見ると、風とは反対に波が沖へ沖へと動いて、みるみる海岸には、広い砂原や黒い岩底が現れてきました。「たいへんだ。津波がやってくるにちがいない」と、五兵衛は思いました。このままにしておいたら、村人四百人の命が、村もろとも一のみにやられてしまう。そこで、五兵衛は、取り入れるばかりになっているたくさんの稲束が積んである、その「稲むら」に火をつけました。すると、「庄屋さんの家が火事だ」と思って、あわてて村のみんなが高台の庄屋さんの家（五兵衛の家）までのぼってきました。

そして、村人みんなが高台にのぼってきた後、大きな津波がやってきました。

我にかえった村人は、この火によって救われたのだと気がつく、無言のまま五兵衛の前にひざまずいてしまった…という話です。（文部省『小学国語読本』巻十より）

●この読み物の話のように、地震そのものの予知はできなくても、その後に起こる（ ）や火災などによる被害を少なくすることはできるのです。

問い：上の文の（ ）に当てはまる言葉は何でしょう？

いかがでしょう。（ ）の中に入る言葉は「津波」です。津波による被害は少なくすることができます。大きな地震が起きたら、とにかく、山や高台などのなるべく高い場所へ逃げるべきなのです。そして、けっして「津波」を侮ってはいけません。

このテスト問題を出して9日後、本当に大きな大きな地震と津波がたくさんの人の命を奪いました。当時の私の気持ちは、とても複雑でした。……私が考えていた「この知識の重要さ」は証明された。しかし、もっともっとたくさんの、東日本に住んでいたたくさんの人たちにもこの「稲むらの火」を知っていてほしかった。そうすれば、何人の人の命が救われたのだろうか……と。